◎向日市民憲章◎

1 住みよいまちを力を合わせつくりましょう
1 きれいな緑と水と空を守りましょう
1 働くよろこびと心のふれあいを大切にしましょう
1 すぐれた教育と文化を育てましょう
1 明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

広報 向日市

No.424

昭和63年3月15日

◎発行 向日市役所（京都府向日市寺戸町中野20）
◎編集 秘書広報課 ◎電話 075(931)1111

63年度予算案

総額169億9,764万円に

福祉と文化・教育の香り高い定住都市の実現

昭和六十三年度の予算案がまとまり、八日から開催されている三月定例市議会に提案され、現在審議されています。

予算案の総額は、一般会計、特別会計など七会計で百六十九億九千七百六十四万円となりました。

予算規模

昭和六十三年度当初予算案の規模は、一般会計九十八億三千七百万円、国民健康保険事業特別会計十八億三千百十二万四千円、老人保健医療特別会計二十一億千五百万円、下水道事業特別会計十七億八千三百五十三万六千円、水道事業会計十四億千百十六万円、大字寺戸財産区特別会計千九十八万千円、物集女財産区特別会計八百八十四万千円となっています。

一般会計

◆市民のくらしを守り 健康と福祉の向上◆

福祉関係について、まず老人福祉の面では、高齢化社会に対応するため老人福祉対策として、在宅虚弱老人等の生きがいを高め、介護する家族の負担を軽減するためにデイ・サービスセンターを開設します。また高齢者に就労の機会を持ってもらうシルバー人材センターの発足準備や、高齢者福祉対策推進の指針となる「高齢者福祉総合対策」を策定します。

身体障害者援護事業では身体障害者の住みよいまちづくりを目指し、難聴者に対して要約筆記奉仕員を新たに設置します。

次に、市民の健康を守る施策としては、老人健康対策として寝たきり老人の訪問看護の充実や訪問看護指導カウンセラーの配置、訪問看護及び栄養指導のための手引き書を発行します。

次に、産業振興対策の農業関係では農業基盤整備をさらに促進させるため農道やため池の整備を図り、新害虫防除試験の委託及び転作奨励補助を実施します。

商工関係では、企業の振興と活性化を図るための経済特別講演会や融資制度の拡充等を実施します。また、「くらしの情報」や悪徳商法から消費者を守る啓発活動、「絵で見る向日市」の観光案内板を整備します。

市民の生命と財産を守り安心して暮らせるまちづくりを図るため、消防・防災対策として携帯用無線機や救助器具を購入し通信体制の充実、消防水利施設の整備を行い、消防団各分団にファクシミリを設置します。

◆住みよい生活 環境の整備◆

市民生活に潤いを与え、住みよいまちとするため、生活道路や市民体育館の進入路となる主要幹線道路の計画的な整備、浸水防除対策、公害対策としての大気中のアスベストの調査を進めます。また、緑地を保全するとともに、昭和五十九年度から整備を進めている市民ふれあいの広場の完成さらに街路整備として久世・北茶屋線の整備、東向日駅周辺の再開発を進めます

清潔で文化的なまちづくりの根幹となる公共下水道事業についても引き続き計画的に整備・推進を図ります。市営住宅の整備については、老朽化の著しい住宅の建替えのための基本設計を行います。

◆心の豊かさをはぐくむ 教育文化の充実◆

学校教育については、学校施設の整備充実や老朽化の著しい勝山中学校校舎の大規模改造、交通安全対策の他に、英会話講師の採用を行います。また、養護教員へのB型肝炎予防接種、障害児教育の充実を図ります。社会教育関係では、文化・芸術の施設である市民会館の整備、上植野コミュニティセンターの開所、図書館の図書の増冊をはじめ埋蔵文化財発掘調査の円滑な運営を図るため㈶埋蔵文化財センターの設立を計画しています。

社会体育・スポーツの振興については、京都国体を契機にトレーニング器具の購入や向日市体育協会の組織の強化を図るとともに、国体の体操及び自転車競技の成功に万全を期しています。

また、国際交流事業の積極的な推進、世界平和都市宣言啓発事業の一環として市民のふれあいの広場に平和記念像を設置することを計画しています。

主な新規事業

昭和六十三年度の予算案に盛り込まれている主な新規事業は次のとおりです。

■市民のくらしを守り 健康と福祉の向上■

▽特別養護老人ホーム施設整備助成
▽シルバー人材センター設置事業
▽高齢者福祉総合対策策定
▽デイ・サービスセンター運営
▽身体障害者短期保護
▽訪問看護指導カウンセラーの配置
▽日本脳炎の一斉接種
▽転作等関連農業振興事業

■住みよい生活環境の 整備■

▽消防団災害出動連絡用ファクシミリの設置
▽西ノ岡丘陵整備基本構想の策定
▽街路環境調査
▽大気中アスベスト分析調査
▽塵芥収集車の購入
▽向日市全図作成
▽北大極殿公園整備
▽東向日駅周辺都市計画施設調査

■心の豊かさをはぐくむ 教育・文化の充実■

▽市営住宅建替基本設計の策定
▽外国人（英会話）講師の採用
▽B型肝炎感染防止対策
▽向陽小学校屋内運動場建設費（賃借料）
▽上植野コミュニティセンターの開所
▽聴覚器具の整備
▽㈶埋蔵文化財センターの設立
▽トレーニング器具の購入
▽平和記念像の設置
▽集会所新築等補助金

63年度 施政方針

積極的な諸施策の推進

民秋市長

昭和六十三年度の国の経済運営は、物価の安定を基礎としつつ、内需を中心とした景気の着実な拡大を図り、持続的な安定成長を達成することを基本としています。

このため、昭和六十三年度の国家予算案は、社会経済情勢の変化に財政が弾力的に対応していくため、経常経費を厳しく抑制する措置が図られました。また、経済情勢に適切に対処するため公共事業を大幅に伸ばすなど、従来の緊縮型予算から内需拡大型の積極的予算への転換がなされ、昭和五十七年度以来の高い伸び率となっています。

一方、地方財政計画におきましても、地方財政は引き続き厳しい状況にありますが、おおむね国と同一基調により、経費の節減合理化に努め内需拡大の要請に応えるとともに、個性豊かなふるさとづくりを推進するため、地方単独事業費を大幅に拡大しております。

さて、本市を取り巻く昭和六十三年度の財政環境は、人件費扶助費、公債費の義務的経費が増大する一方、市税収入が住民税減税の影響を受け、伸び悩むうえ、国庫補助負担率が引き続き引き下げられるなど、厳しい財政運営を余儀なくされております。

私は、これらの厳しい財政環境に対処し、困難な諸条件を克服して、五万市民の今日のくらしを守り、誰しもが住みたいと願う明日への理想のまちを築き上げるため、本市の抱える課題に挑戦し、積極的かつ計画的に推進しなければならないと考え「なせば成る」の信念のもと、英知を結集して、施策の遂行を期してまいる所存であります。

さて、本市の昭和六十三年度の当初予算案につきましては、市長就任以来一貫して取り組んでまいりました清潔で明るい心のふれあう市民本位の市政の推進を基本に

○市民のくらしを守り、健康と福祉の向上
○住みよい生活環境の整備
○心の豊かさをはぐくむ教育・文化の充実

の三項目を行政の施策の柱として、二十一世紀に向けて、福祉と文化・教育の香り高い定住都市をめざし、時代の要請に応える諸施策について積極的な予算計上に努めました。

とりわけ、六十三年度は、京都国体の開催の年にあたり、本市では体操と自転車競技が開催されます。

京都国体の成功をめざし、市民総参加のもと、創意と工夫により、その受入れに万全を期す所存であります。

すなわち、昭和六十三年度当初予算案では、きめ細かな福祉施策をさらに前進させるとともに、街路、道路、河川、水路など生活関連施設の整備、駅前整備や阪急連続立体交差化への取り組み、上水の確保や公共下水道の促進、緑の保全や公園の整備、地元産業の育成など、さらに教育環境の充実や文化、スポーツの振興、また、平和施策や国際交流など、可能な限り、織りこんだところであります。

▼特別会計▲

老人保健医療会計 21億1500万円

七十歳以上、及び六十五歳から六十九歳までの障害のあるお年寄りにかかる医療についての給付に必要な経費を計上しました。

国保会計 18億3112万円

国民健康保険事業は、医療費適正化対策としてレセプトの審査を重点的に行うなど、国保財政の健全化に努めます。また、人間ドック健康診断補助事業に加え健康家庭表彰、健康づくりPR用冊子の作成などを行います。

水道会計 14億1116万円

水道事業は、取水井戸代替掘さく等、原水の確保に努めるとともに、配水給水設備の改善を行います。今後も清浄にして豊富低廉な水を供給するため、事業運営の一層の効率化と市民サービスの向上に努めていきます。

下水道会計 17億8353万円

公共下水道事業は、昭和六十三年度末の整備面積は二百九十二ヘクタール、また整備人口は二万九千人を目ざし事業を推進します。これにより全市人口普及率は五四パーセントに至る見込みです。

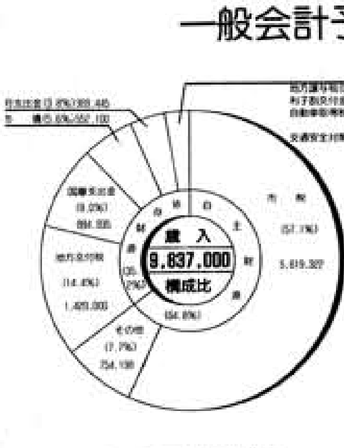
大字寺戸財産区 1098万円

大字寺戸財産区の運営経費ならびに財産維持管理費を計上しています。

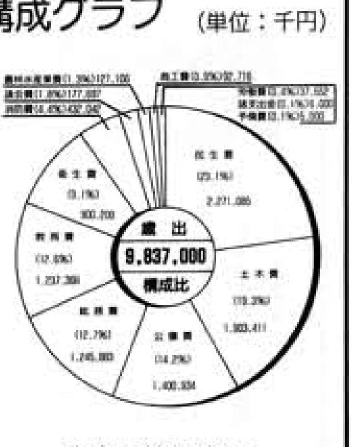
物集女財産区 884万円

物集女財産区の運営経費ならびに財産維持管理費を計上しています。

一般会計予算構成グラフ （単位：千円）



歳入予算構成図



歳出予算構成図